

# 平成28年度青森県原子力防災訓練



## —原子力防災体制を確認—



10月25日、青森県・関係市町村の共催により、東北電力(株)東通原子力発電所1号機を対象に、原子力防災体制の確立、防災関係機関の緊急時対応能力の向上を図ることを目的とし、約90機関、約1,700名(住民参加者を含む)が参加し、原子力防災訓練が実施されました。

「海路避難訓練」では、早掛平、大利、向野、目名地区を対象に、12名が海上自衛隊の船舶により、大平岸壁から青森港を経由して、その後はバスで平内町の避難所へ避難しました。

村では、原子力発電所の事故を想定し、防災センター内に村災害対策本部を設置し、災害対策本部会議を開催して、各種対策の検討を行い、青森県災害対策本部との通信連絡や情報の共有化、そして、国、県、関係市町村、事業者によるTV会議を行いました。

また、防災無線、広報車などによる住民への広報訓練、電話、FAX等による村内の関係施設(医療・社会福祉施設、学校、商工会体、農林水産団体)を対象に避難指示等を伝達する訓練も行いました。

さらに、住民が参加し、陸路および海路による避難訓練を実施しました。

「陸路避難訓練」では、小田野沢、老部、白糠地区を対象に、41名が各地区の一時集合場所からバスにより、平内町の避難所へ避難しました。(※東通村の避難先は青森市となりますが、今回はむつ市の避難先となる平内町の避難所を使用しました)

訓練にご参加いただいた住民の皆様は原子力災害が発生した際の行動等を確認しながら、真剣に取り組んでいました。

村としては、原子力防災対策に万全を期すため、今後も定期的に訓練を実施していきます。

「協力ありがとうございます」

### 各訓練の様子



TV会議映像



対策を指示する越善本部長



災害対策本部会議



海路避難訓練



陸路避難訓練



避難所の様子